



学校法人
鎌倉女子大学

入学式学園長式辞より抜粋

初等部のご父母へのお話から ー平成19年4月6日（金）ー

国木田独歩がこういう趣旨のことを言っています。小さな子どもが、公園でよちよち歩いている。なにかのひょうしにパタッところんだ。ほうっておけば、自分で立ち上がり、パタパタと手をはたいて、何事もなかったように、また歩み出すのに、見ている大人があわてて近寄り、「何々ちゃん大丈夫」、「痛くなかった」、「怪我はしてない」、と^{おおぎょう}大仰に騒ぐ時、子どもは、むしろ大人の反応に驚いて、かえって痛い痛い泣きじゃくり始めるものだ。そして、そこに甘えが芽生え始めるものだ。

人間の心理とは、往々こうしたものであらうと思います。いや、私たち大人の心理だって、この子どもの心理と五十歩百歩ではないのでしょうか。

ですから、私たち親は、子どもに勉強を大変がらせないことが、まず大切なことだと思います。一三昧になって勉強しているお子さんに、「何々ちゃん疲れない」、「そろそろお休みしてお八つを食べた方がいいんじゃない」、「あまり勉強し過ぎると体を壊すわよ」。子どもが勉強し過ぎて体を壊したなどという話は、私は、これまで何十年教師をやってきましたが、まず聞いたことがありません。

お母さま、お父さま方をお願いしたいことは、むしろ勉強というものは面白いものだ、ものが解かっていくということは楽しいことなんだ、いくら勉強したっていい、そういう心をお子さん方の幼いうちに是非培ってやって頂きたいと思います。

学園長が持ち出す例としては、あまり適当ではないのかも知れませんが、テレビゲームだって、そうでしょう。子どもは、面白いから夢中になってやる。しかも、あれは、攻略本を調べなければ、容易には遊べないようです。そこで、子どもは、ほうっておいても、あの分厚い攻略本を丹念に調べるわけです。攻略本は、一種の辞書ですよ。これと同じように、勉強も面白いと思えば、子どもたちは、進んで辞書を読み解くわけです。

「^{これ}之を知る者は、之を好む者に^し如かず（※及ばず）。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」という孔子の言葉があります。お子さんを「勉強好き」に、「調べ好き」にしてやって頂きたいと思います。今から本格的な就学過程が始まるわけですから、まずは兎にも角にも私たち大人がもつ初めの子育てへの姿勢が肝心だと思います。知的教育と心の教育は、相矛盾するものでは決してなく、学問好きにさせることもまた、心の教育の一環のことだと思いますので。

中等部・高等部の生徒並びにご父母へのお話から ー平成19年4月8日（日）ー

中・高等部の勉強は、これまで以上に、それぞれの専門性に分かれていきます。また、

その分野ごとに学ぶべきことも深まっていきます。いよいよ上級学年に進んだわけですから、新しい中等部の、また高等部の勉強方法に段々慣れていって下さい。小学校時代よく出来た、中学校時代よく出来たという自覚の強い人ほど、中学に進学し、高校に進学すると、かえってこんなはずではなかったと、落差を感じる人が多いものです。この入学を機に、気持ちもまたステップアップ、どうぞ一新して下さい。そのことは、皆さんの力強い飛躍のためにはとても大切なことだと思います。

友人や先生方との関係も、変化に富んでいくことでしょう。中学生・高校生という時代は、お互いに自我に目覚める頃、お互いに多感な時代ですから、どんな場合でも相手への尊敬を失ってはいけません。これまで以上にお互いに自分を主張し合うこともあるかも知れません。しかし、それもまた、皆さんがやがて立派な社会人となるためには必要な経験でもあります。社会には、自分とは異なる意識の人々もたくさん暮らしているのであり、君たちは、早晚社会に出ていかなければならないのですから。学校は、社会に出ていくための模擬演習の場でもあるわけです。

特にご父母の皆さまにおかれては、お子さんとの「距離と関係」を上手にお取りになることを期待します。子どもは、幼い頃は、例えば母親の目を通じて世界を見、母親の耳を通じて世界を聞き取り、母親の心、あるいは価値観を通じて世界を理解しているものでした。しかし、成長するということは、実はその間に一種の分裂が生じることでもあります。これは、お母さんの見方だ、考え方だ、これは、自分の見方だ、考え方だ、そういう距離の意識が子どもの中に芽生えてくるということでもあります。このことは、お互い親にとっては、ある種の淋しさが生ずるものですが、しかしいつまでも子どもを親の世界に抱え込むことは、かえってお子さんの成長を阻害し、場合によってはお子さんの面目をつぶすことにもなるものです。成長期における親子の距離を上手に取れる人こそ、よりよい関係を築き上げる人なのだと思います。

君たちも、困った時、悩んだ時には、遠慮せずに、自分が話しやすそうだなと思う先生に心のうちを話してごらん下さい。それは、必ずしも担任の先生でなくてもかまいませんよ。普段教えて頂いている先生にはかえって話しづらいなと思う人のためには、カウンセリング室も用意してあります。問題があるから訪ねるのではない、ご父母であれば、子育ての仕方の意見交換ということでも結構です、どうぞ気楽な気分で相談してみてください。

情報化社会という時代は、社会の刺激が家庭や学校を媒介せずに、例えばインターネットを通じてストレートに子ども部屋に、そして子どもの心に侵入してくる時代でもあるということです。現代こそ、家庭と学校が信頼し合って連携・協力し、お子さんの成長と注意深く歩まなくてはならない時代はありません。本学の校章に象徴される「知と心と体」を育む教育は、家庭だけでも出来ません、また学校だけでも出来ません。どんな場合でも、理想の教育は、「親と子と先生の三位一体」にこそ成り立つものと考えますので。

[>前のページへ戻る](#)